

【学校教育目標】

自分を大切に、なかまを大切に、そしてふるさと香南を愛する生徒の育成

【本校の課題】

- 令和7年度の新体力テストの結果によれば、当時の1年生と2年生における、
 - ・ 男子のA-B判定の生徒が5%、C判定の生徒が35%、D-E判定の生徒が60%であった。
 - ・ 女子のA-B判定の生徒が43%、C判定の生徒が29%、D-E判定の生徒が28%であった。
 - ・ A判定の生徒は、男子0人、女子3人となっており、全体の3%であった。
- 上記の結果が示す通り、全体的に体力水準は低く、特に男子にその傾向が顕著である。

【現状】

昨年度の結果を受け、後述するような体力向上に関わる取り組みを、1年間かけて行ってきた。本年度の新体力テストの結果はまだ全て出揃っていないが、現時点で、すでに昨年度に比べて体力の高まりを感じて喜ぶ生徒の姿が見られている。引き続き体力向上に関わる取り組みを行っていくことに加えて、本年度は、昼休みの体育館開放、新体力テストの再測定チャレンジなど、生徒が自由に体を動かしたり記録に挑戦したりできるような環境づくりに尽力していきたい。

保健体育科の授業での取り組み

- ・ テスト実施前に、昨年度の体力テストの結果から、本年度の目標値を設定させる。
- ・ 実施後に、体力テストの結果を、レーダーチャートを用いて分析させ、自身に足りない体力要素を振り返らせる。
- ・ 日々の体育授業の中で、「意欲湧く運動課題との出会い」「知的欲求を刺激する問い」「対話を促す場の工夫」を意識的に取り入れ、生徒の運動に対する欲求を高めていく。

部活動や地域・家庭と連携した取り組み

- ・ 「ソーラン隊」や「駅伝部」など、有志による臨時的部活動を企画し、体力の向上と郷土愛の寛容を図る。
- ・ 「キンボール」や「なぎなた」など、地域に根付いたスポーツ団体と連携し、部活動の地域展開後の生徒の選択肢を増やしていく。
- ・ 生徒会や委員会活動と連携し、自由に運動したり、記録に挑戦したりすることができる時間と場を生徒に提供する。

【目標】

- ①「新体力テストの数値における目標」
結果判定のボリュームゾーンをD-EからCへ移行させる。
- ②「運動に対する意識・運動習慣」
来るべき地域展開に向けて、「体育授業以外でも運動する機会をもちたい」と回答する生徒の割合を増やす。